

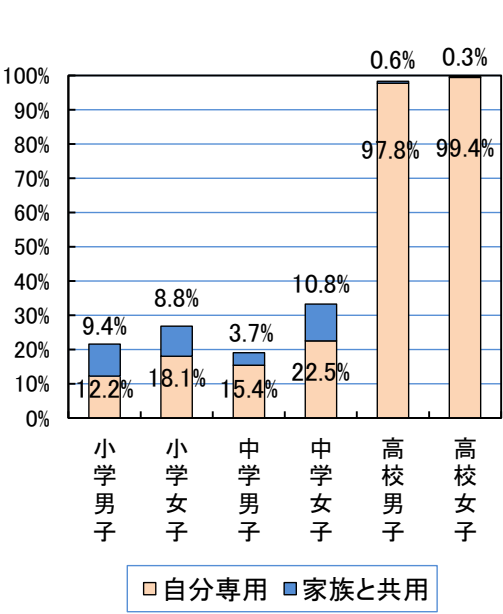
平成24年度「携帯電話についてのアンケート」結果について

教学指導課心の支援室

○調査の目的	児童生徒の携帯電話の利用の実態を把握し、指導の参考に資するため		
○調査対象及び抽出校	小学校8校（749名）	中学校10校（908名）	高等学校12校（1,337名） 計30校（2,994名）
○調査時期	平成24年9月		

1 携帯電話を所持している児童生徒の割合

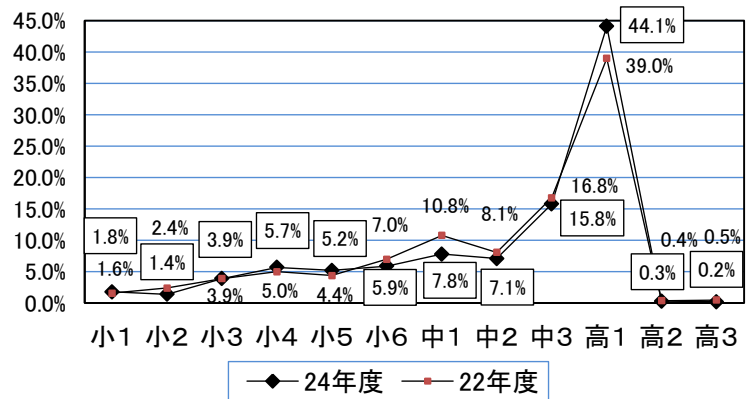
		小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
平成24年度の所持率(%)	自分専用携帯を所有	11.3	15.6	18.4	15.6	17.0	23.8	98.7	98.6	98.6
	家族と共用	12.9	7.4	7.0	9.2	6.9	5.9	0.0	0.7	0.7
	計	24.2	23.0	25.4	24.8	23.9	29.7	98.7	99.3	99.3
平成22年度の所持率(%)	自分専用携帯を所有	8.0	6.1	4.7	14.1	18.1	20.3	97.4	98.0	98.2
	家族と共用	16.1	7.9	8.9	5.4	5.9	5.3	0.2	0.5	0.5
	計	24.1	14.0	13.6	19.5	24.0	25.6	97.6	98.5	98.7



(参考)		(単位: %)	
全国学力・学習状況調査より (カッコは22年度)		小6	中3
	長野県	22.7 (17.4)	36.7 (36.4)
	全 国	36.4 (30.6)	63.5 (60.2)

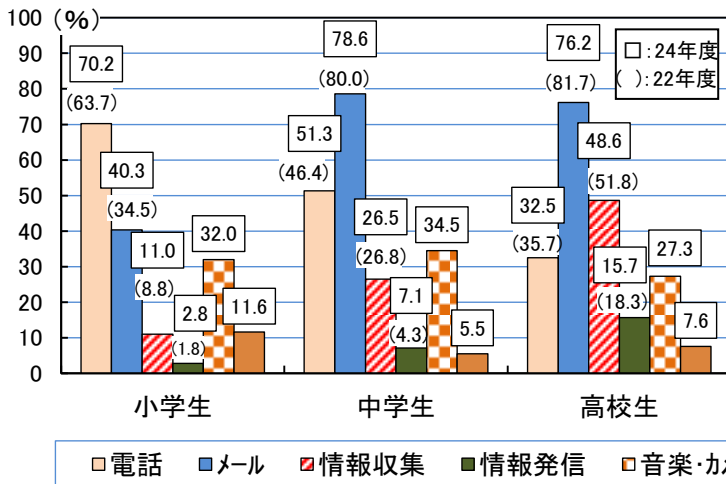
- 携帯電話を所持している児童生徒の割合は、中学2年生から中学3年生でやや増加し、中学3年生から高校1年生で急増する。
- 高校生の約99%は「自分専用」の携帯電話を所持している。
- 各年代ともに女子のほうが所持率が高い。
- 前回調査（平成22年10月）と比較すると小学生が「自分専用」の携帯電話を所持している割合が大きく増加しており、携帯電話所持の低年齢化の傾向がみられる。

2 携帯電話を購入した時期



- 前回調査と比較すると、高校1年生で携帯電話を購入する割合が増加している。また、中学生で購入する割合が減少している反面、小学4・5年生で購入する割合がやや増加している。このことから、児童生徒の携帯電話所持の低年齢化が進んでいることがうかがえる。

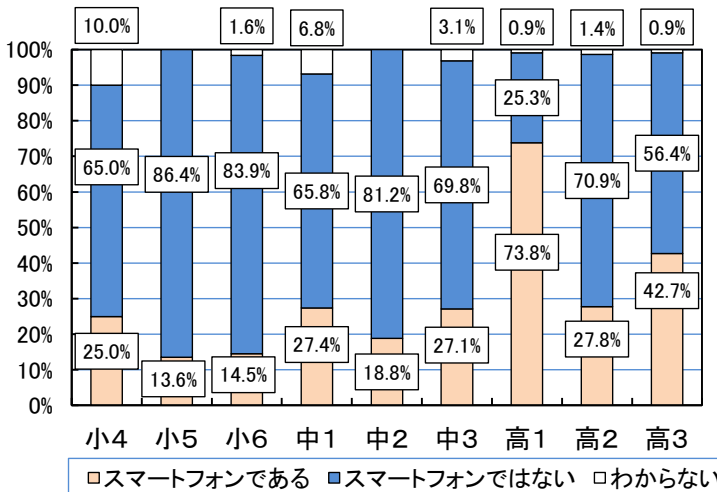
3 よく使用する機能（複数回答）



- 小学生は「電話」、中・高校生は「メール」の利用が多い。また、各年代ともに「音楽・カメラ・テレビなどの機能」を利用する割合が高い。
- 前回調査と比較すると、小・中学生の「情報発信」の割合が高くなっており、ネットへの積極的な情報発信の低年齢化の傾向がみられる。
- 今回初調査した「オンラインゲーム」は、小学生の利用率が高い。

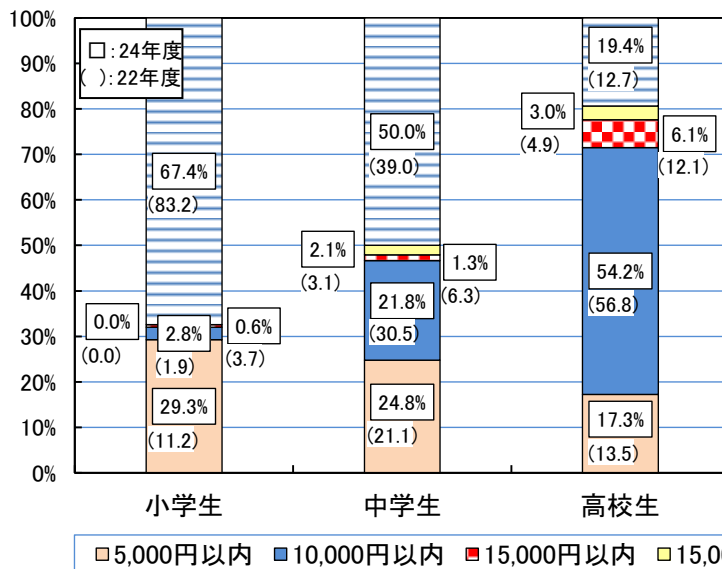
4 スマートフォンを所持している児童生徒の割合

前頁の1で回答した「自分専用」及び「家族と共用」の端末が、スマートフォンである割合。



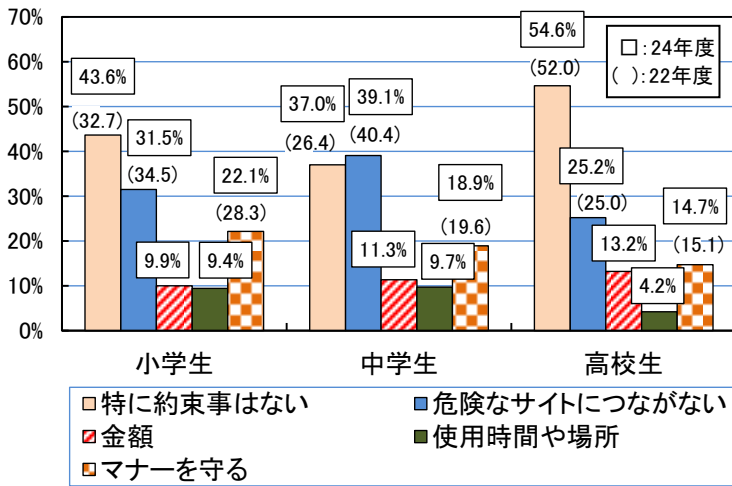
- 高校1年生の7割以上がスマートフォンを所持している。また、高校3年生の所持率も高いことから、新たに携帯電話を購入する場合、あるいは携帯電話を買い替える場合、その多くがスマートフォンを購入していることがうかがえる。

5 1ヶ月あたりの使用料金



- 小学生は「5,000円以内」、中・高校生は「10,000円以内」が多い。
- 前回調査と比較すると、「10,001円以上」の割合が各年代とも減少している。また、高校生は「5,000円以内」の割合が増加しており、「定額制」の料金契約の増加とともに、使用料金を抑えている傾向がある。

6 携帯電話使用に関する保護者との約束事（複数回答）



○ 前回調査と比較すると、保護者との約束事がない児童生徒の割合が増加しており、高校生は約55%である。

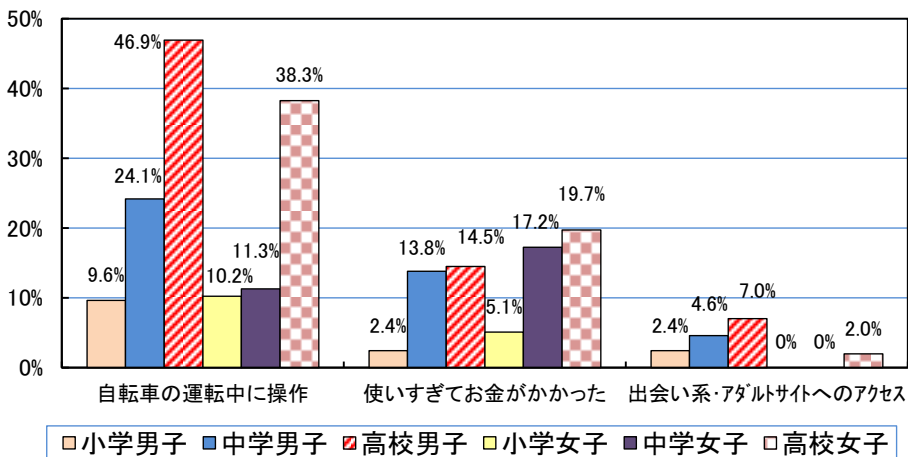
○ 今回初調査した「使用してよい時間」や「家の中での使用場所」について約束事のある割合は各年代ともに低い。

（参考）調査対象：保護者（平成23年2月）

全国	小	中	高
家庭のルールを特に決めていない	9.5%	9.4%	19.1%

警察庁『児童が使用する携帯電話に係る利用環境実態調査』より

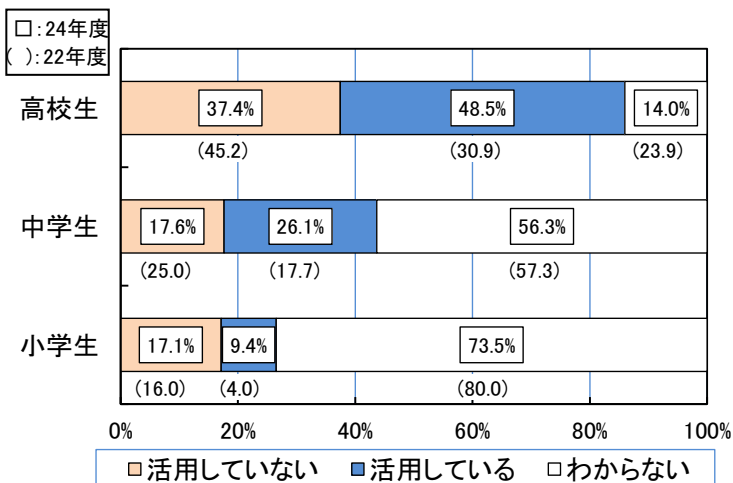
7 携帯電話で経験したことがある行為（複数回答）



○ 自転車運転中に携帯電話を使用したことがある児童生徒の割合は、年代が上がるにつれて急増し、高校生は男女合わせて4割以上である。

○ 料金の使い過ぎ、アダルトサイト等へのアクセス経験についても、男女とも年代が上がるにつれて割合が増加する。

8 フィルタリング機能の使用



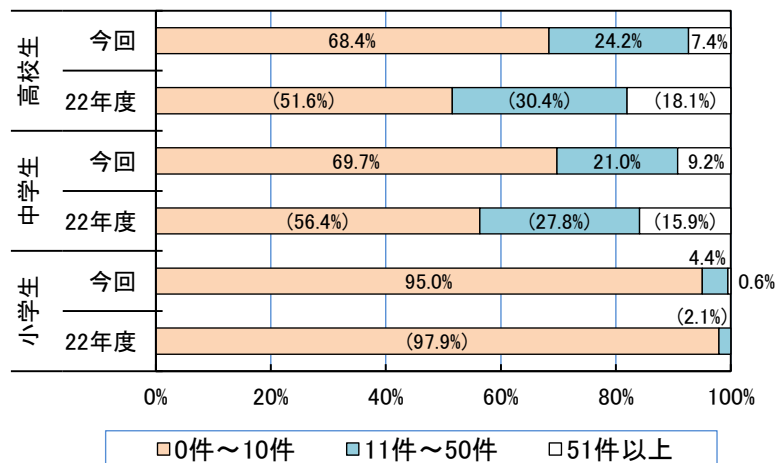
○ 前回調査と比較すると、フィルタリング機能を活用している割合は各年代ともに増加している。

○ 高校生のフィルタリング活用率は、前回調査よりも17.6ポイント上昇しているものの、活用率はまだ5割弱という実態である。

（参考）警察庁『児童が使用する携帯電話に係る利用環境実態調査』（平成23年2月 調査対象：保護者）より
フィルタリング利用率（インターネット利用不可機種・設定含む）

	小学生（4～6年）	中学生	高校生
長野県	77.2%	69.8%	58.8%
全国	75.9%	67.5%	51.9%

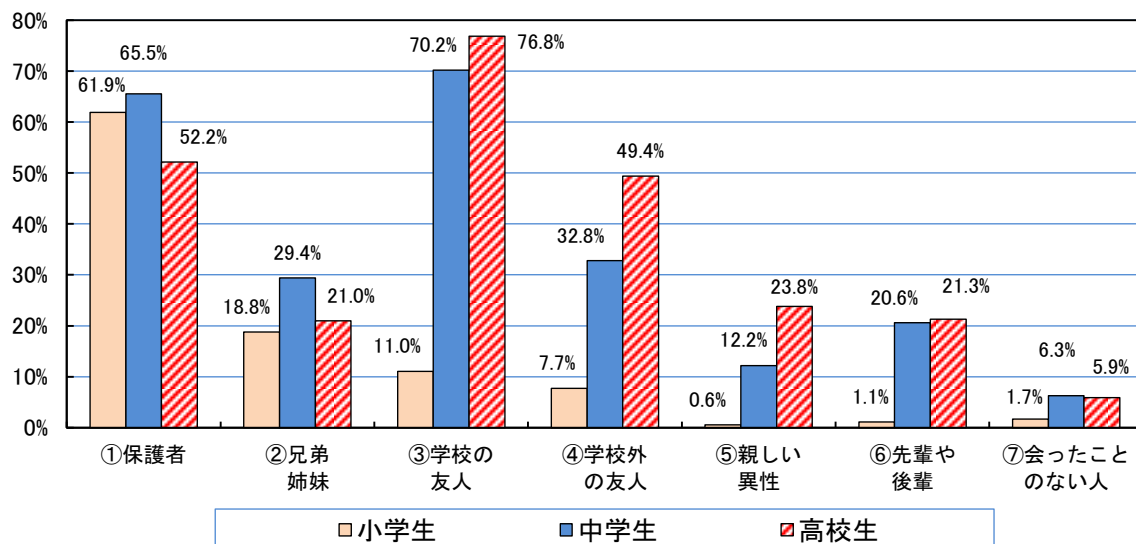
9 1日に送信する携帯メール件数の平均



○ 1日に送信するメール件数は、中学生になると急増する。

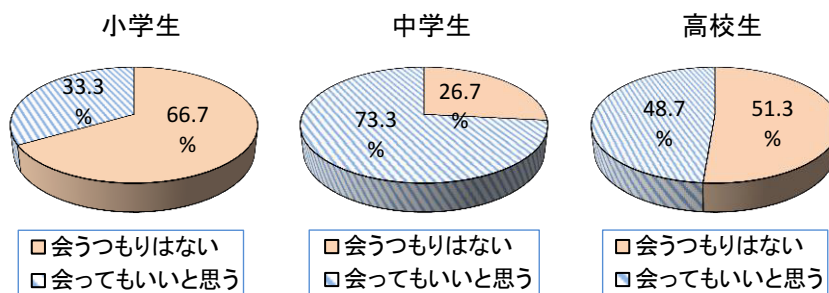
○ 前回調査と比較すると、1日に送信するメール件数の平均は、小学生では微増しているが、中・高校生はともに減少している。スマートフォンの普及拡大に伴い、メール以外の機能を利用したコミュニケーションの増加傾向がうかがえる。

10 携帯メールをする相手（複数回答）



11 メール相手と実際に会ってもいいと思っている児童生徒

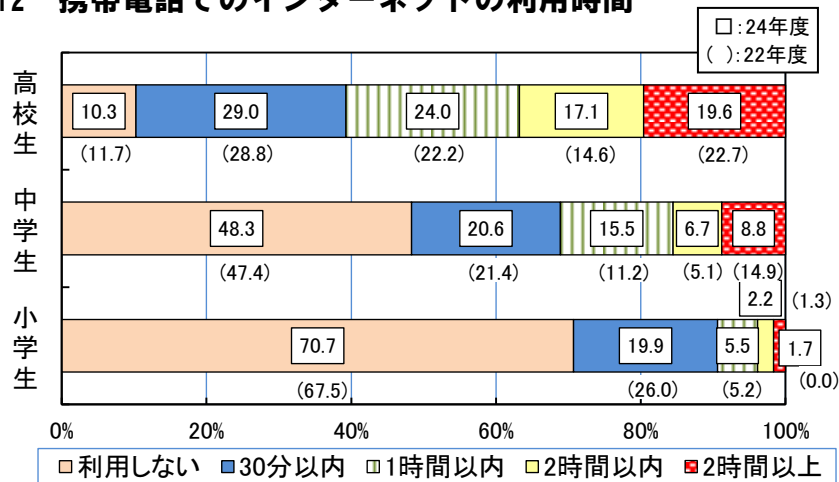
上記10で⑦と回答したうち、実際に会ってもいいと思っている児童生徒の割合。



○ メールをする相手は家族や学校の友人が多いが、年代が上がるにつれて、学校外の友人という回答が増加する。

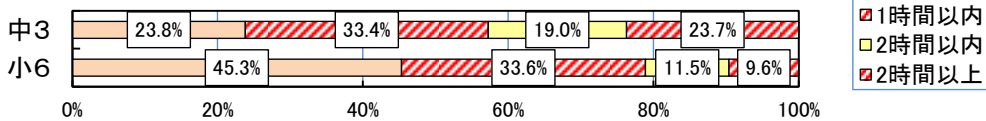
○ 中学生の6.3%、高校生の5.9%が、実際にあったことのない人とメールのやり取りをしている。そのうち、中学生の約7割、高校生の約5割が、「会ってもいいと思う」と回答している。

12 携帯電話でのインターネットの利用時間

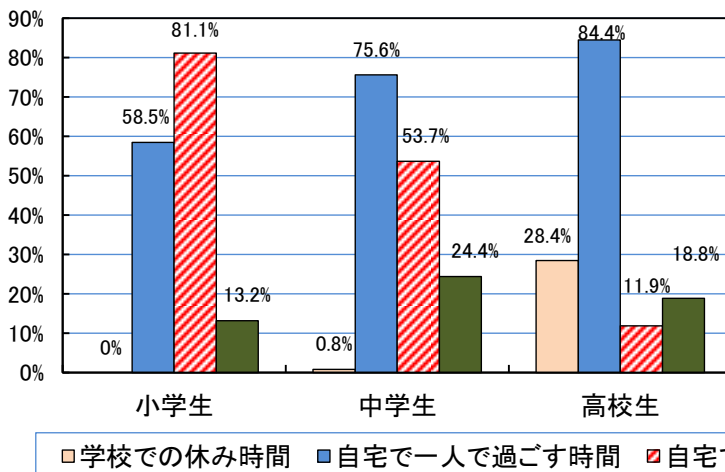


- 前回調査と比較すると、2時間以上利用している割合は、中・高校生ともに減少しているものの、高校生は2割近い。
- 小学生は、30分以上利用している割合が、前回調査と比較すると、約3%増加している。

(参考) 全国学力・学習状況調査より

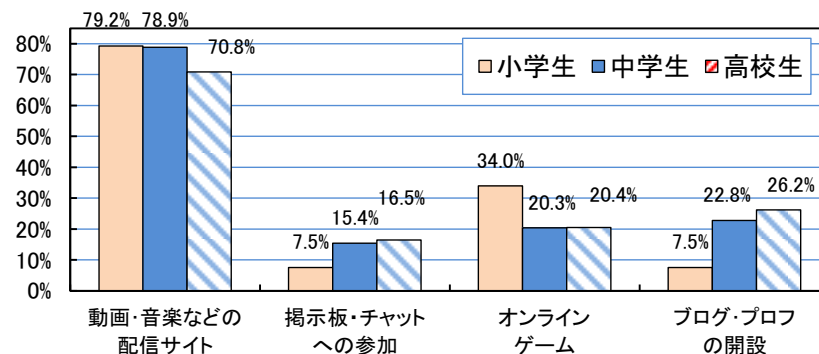


13 携帯電話でインターネットを利用する主な時間帯（複数回答）



- 年代が上がるにつれて、「自宅で家族と過ごす時間」にインターネットを利用する割合は減少し、「自宅で一人で過ごす時間」に利用する割合が増加している。
- 携帯電話でインターネットを利用している中学生の約25%が、「深夜」に利用している。

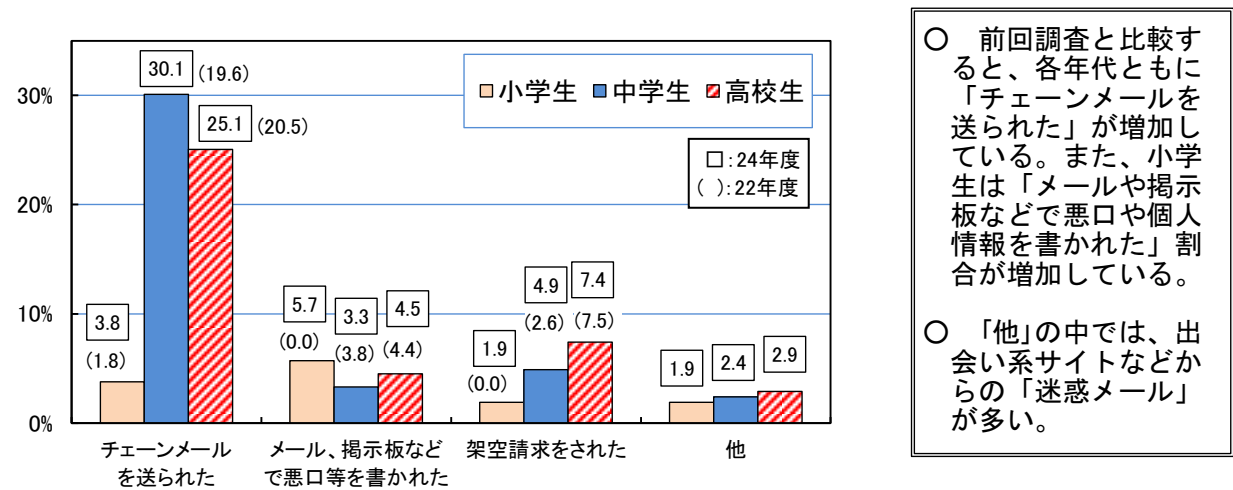
14 アクセスするサイト（複数回答）



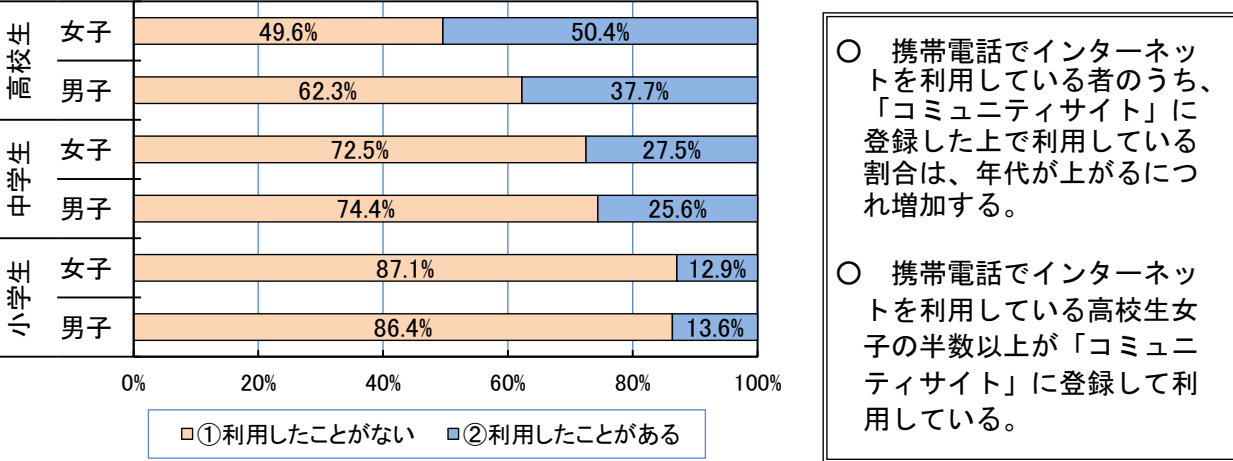
- 各年代とも、「動画・音楽などの配信サイト」へのアクセスが多い。
- 「オンラインゲーム」へのアクセスは、各年代とも男子の割合が高い。
- 「掲示板・チャットへの参加」や「ブログ・プロフィールの開設」は、各年代とも女子の割合が高い。
- 携帯電話でインターネットを利用している高校生女子の約4割が、ブログやプロフィールを開設している。

	小学生		中学生		高校生	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
動画・音楽などの配信サイト	72.7%	83.9%	93.0%	71.3%	67.7%	73.5%
掲示板・チャットへの参加	4.5%	9.7%	14.0%	16.3%	13.9%	18.7%
オンラインゲーム	54.5%	19.4%	30.2%	15.0%	28.5%	13.4%
ブログ・プロフィールの開設	0.0%	12.9%	9.3%	30.0%	11.0%	39.4%

15 インターネットや携帯電話で嫌な思いをしたこと（複数回答）



16 コミュニティサイトに登録して利用している割合



17 サイトで知り合った人と実際に会ったことがある児童生徒

上記16で②と回答したうち、サイトで知り合った人と実際に会ったことがある児童生徒の割合とその理由。

		小学生	中学生	高校生
回答者全体に占める割合		0.4%	0.4%	2.5%
上記16の②(サイト登録の上利用)に占める割合		42.9%	12.1%	6.2%
理由	ひまだったから		50.0%	30.3%
	おもしろそうだったから	33.3%		15.2%
	スリルや刺激がほしかったから		25.0%	6.1%
	お金がほしかったから			6.1%
	話し相手がほしかったから	33.3%		3.0%
	相手のことをもっと知りたかったから		25.0%	12.1%
	その他	33.3%		27.3%

- サイト内で知り合った相手と実際に会ったことがある高校生は、全体の2.5%である。また、数は少ないが、小・中学生でも、サイト内で知り合った人と実際に会ったことがある者がいる。
- 理由の「その他」は、「なんとなく」、「趣味が同じ」、「話が合う」、「たまたま同じ地域の人だったから」等であった。

18 アンケート結果の総括

- 携帯電話の所持率や購入時期については、前回調査（平成22年10月）と比較すると、小学生が自分専用の携帯電話を所持している割合が増加している等、低年齢化が進んでいる。
- スマートフォンの所持については、高校1年生の7割以上、高校3年生の4割以上が所持している等、高校生を中心に急速に拡大している。
- 携帯電話の料金契約については、定額制の利用が一般的になってきている。
- 携帯電話使用に関する保護者との約束事については、約束事がないと回答した児童生徒の割合が高い状況にある。
- 自転車運転中の携帯電話の操作については、4割以上の高校生が経験している。
- フィルタリング機能の使用率については、前回調査と比較すると上昇しているものの、高校生の使用率が5割弱である等、依然として低い水準にある。
- メール機能の使用については、1日に携帯電話から送信するメールの平均件数が中学生、高校生ともに減少している。しかし、会ったことのない人とメールをやり取りしている児童生徒がいる。そのうち、その相手と実際に会ってもいいと思っている児童生徒の割合は、中学生で約7割、高校生で約5割となっている。
- インターネットの利用については、中学生、高校生ともに長時間の利用は減少傾向にある。しかし、深夜利用の児童生徒がいる。また、スマートフォンの普及拡大により、音楽や動画などの機能、オンラインゲーム、コミュニティサイトなどを利用したコミュニケーションが増加している。
- コミュニティサイトの利用については、高校生女子の5割以上が登録して利用している等、利用者は増加傾向にある。また、サイト内で知り合った人と実際に会ったことがある児童生徒もいる。

19 今後の対応

- **携帯電話所持の低年齢化への対応**
学校におけるメディアリテラシー及び情報モラル教育の一層の充実に向け、局内情報教育推進プロジェクトチームが中心となり、発達段階に応じたモデルカリキュラムや教材の作成を検討する。
- **教職員の情報モラル指導力の向上**
教職員の、メディア特性や情報モラルについての理解と児童生徒への指導に役立つよう、指導・啓発資料の作成配布、校長研修や各種指定研修、生徒指導主事会議や教育課程研究会等、あらゆる機会を通して、引き続き、情報提供を継続していく。
- **スマートフォン対応**
スマートフォンなど新たな機器とその機能について、指導資料「ユビキタスながの」等によって周知し、全ての教職員が理解を深め、学校全体で児童生徒の情報安全を守る体制を整備する。
- **保護者への啓発**
インターネットや携帯電話の適切な利用、家庭におけるルールづくり、フィルタリング機能の活用等について、保護者への啓発及び情報提供により、家庭と学校の連携を強化する。
- **メディアを介したいじめへの対応**
インターネット上の誹謗中傷や不適切な投稿に関するケーススタディを通して、いわゆる“ネットいじめ”について学ぶことにより、児童生徒の人権尊重の態度と実践力を育成する等、情報モラルについて、人権教育の視点からの指導の強化を図る。